

七条中学校だより6月12号

京都市立七条中学校

令和8年6月15日

発行：校長 林 秀雄

定期テストに向けて8 「わからない」と向き合う力

これまでの学習で、「なぜ、この解答になるのかわからない。」「ここを誰かに質問して理解したい。」「この単元は苦手で、今の自分の力だけでは難しい。でもどうにかしたい。」「この問題が分からなくて、すごく気になり、不安になる。」など、学習を進めていくうえで、様々な「わからない」「どうしよう」「不安だ」という気持ちを感じたことがあると思います。しかし、これらの気持ちは決して避けるべきものではありません。むしろ、自分の学びが前に進もうとしている証です。「わからない」と感じる瞬間こそが、新しい力を身につける入口なのです。大切なのは、その気持ちをそのままにしないことです。「わからない」で止まるのではなく、「どうすれば分かるようになるか」と考え、行動することが、七条のプロセスの中の大切な学びにつながります。

そのために意識してほしいのが、「自分から動く」という姿勢です。分からないところがあれば、そのままにせず、●友達に聞いてみる●先生に質問する●一緒に考えてみる。といったように、自分から一歩踏み出してください。「聞くのは恥ずかしい」と感じることもあるかもしれませんが、分からないままにしておくことのほうが、学びの機会を失ってしまいます。分からないことを言葉にすること自体が、理解への大きな一歩なのです。

また、次のような行動も大切です。●教科書やノートを見直し、考え直してみる●類題を解いて、考え方を確かめる●自分の言葉で説明してみる。こうした一つひとつの行動が、「わからない」を「わかる」「できる」へと変えていきます。

さらに、不安を感じるということは、「もっとできるようになりたい」という思いがあるからこそ生まれるものです。その気持ちを大切にしながら、小さな一歩を積み重ねていきましょう。

ここで改めて意識してほしいのが、「どれだけ学んだか」だけではなく、「目標に向かって積み重ねてきた努力が、自分の力としてどこまで身についているか」という視点です。大切なのは、「やった」という事実だけではなく、「できるようになった」という変化です。わからなかった問題が少しでも解けるようになったとき、それは確かな成長です。

定期テストに向けたこの時期は、自分の弱点や不安と向き合う大切な時間です。「わからない」をそのままにせず、自分から動き、周りの力も借りながら一つひとつ丁寧に乗り越えていくことが、皆さんの力を大きく伸ばしていきます。皆さん一人ひとりが、自分の学びと真剣に向き合い、「わからない」を「できる」に変えていくことを期待しています。

夏至（げし） 自然と文化に目を向けて

夏至（北半球において、一年のうちで最も昼の時間が長くなる日。今年は6月21日）が近づくと、各地でさまざまな風習が行われます。関西ではタコを食べて豊作を願う地域があり、関東では「半夏生（はんげしょう）」に合わせて田植えの区切りとする習慣もあります。ヨーロッパでは夏至祭として火を焚き、太陽の力が最も強まる日を祝う文化もあります。では、昔の人はどうやってこの“夏至”という節目を見つけたのでしょうか。

昔の人は、私たちのような科学の道具を持っていませんでした。それでも季節の移り変わりを知ることは、農耕を営むうえで欠かせないことでした。そこで生まれたのが、「太陽は毎日同じ動きをしているのだろうか」という素朴な問いです。毎日同じ場所から太陽の昇る方向や高さを観察すると、太陽が少しずつ北へ寄ったり南へ寄ったりすること、正午の高さが変わることに気づきます。ここから、「太陽の動きには規則的な変化があるのではないか」という新たな問いが生まれました。

さらに、地面に棒を立てて影の長さを測り続けると、一年の中で影が最も短くなる日があることが分かります。影が短いということは、太陽が最も高い位置にあるということ。この日こそ、後に「夏至」と呼ばれる日です。これはまさに、問いを立てる → 観察する → 記録する → 比較する → 結論を導く という探究のプロセスそのものです。世界には、夏至の日に太陽が特定の位置に昇るよう設計された遺跡も残っています。長い年月をかけて自然を観察し続けた証です。

昔の人が夏至を見つけた背景には、自然をよく見つめ、問いを持ち、記録し続ける姿勢がありました。夏至を迎えるこの時期、みなさんも身のまわりの「なぜ？」に目を向けてみてください。そこから新しい学びが始まります。

予想問題へのご協力、ありがとうございました

今回、学校だよりを通じて皆さんに呼びかけた「予想問題づくり」に対して、2年生からは2教科3問、3年生からは10教科11問の投稿がありました。まずは、勇気をもって取り組み、投稿してくれた皆さんに心から感謝します。予想問題をつくるということは、単に問題を考えることではありません。「どこが大切か」「どのように問われるか」「何が理解できているか」を自分自身に問い直す、とても深い学びです。今回投稿してくれた皆さんは、自分の学びを一段高い段階へと引き上げる経験をしてくれたことと思います。その挑戦する姿勢を、大変うれしく感じています。また、今回の取組は、投稿してくれた人だけのものではありません。共有された問題をもとに考えたり、解き合ったりすることで、周りの仲間の学びにもつながっています。皆さん一人ひとりの行動が、学年全体の学びを高めていることを忘れないでください。

一方で、「やってみようと思っていたけれど出せなかった」「どう作ればよいか分からなかった」という人もいたのではないのでしょうか。それも大切な気づきです。次回は、ぜひ一歩踏み出してみてください。特別に難しい問題である必要はありません。●自分が大切だと思った内容●つまずきやすいポイント●「ここは出そうだ」と感じたところ。こうした視点をもとに作るだけでも、十分価値のある学びです。大切なのは、「うまく作れるか」ではなく、「自分で考えてみること」です。

最初の一問は、誰にとっても簡単ではありません。しかし、その一問を作った経験は、必ず自分の力になります。七条中学校では、「自分の学びを自分でつくる」姿を大切にしています。予想問題づくりは、その実践の一つです。次回は、今回よりも多くの皆さんが参加し、「自分もやってみた」「考えて作った」という経験を広げてくれることを期待しています。皆さん一人ひとりの挑戦が、学びをより豊かなものにしていきます。

予想問題

2年社会

- (1) 九州地方の北部に広がる、なだらかな山地をなんというか
- (2) 九州地方の南部に広がる、火山灰が重なってできた水はけが良い大地のことを何というか

2年英語

次の空欄に入る最も適切なものを選択してください

私は明日の午前中、テニスをする予定です

I am _____ to play tennis tomorrow morning.

A.go B.went C.going D.will

3年国語

「世界はうつくしいと」は何語何詩？

3年社会

大衆文化で発展した文学にて「蜘蛛の糸」の作者の名前は？

3年数学

$\sqrt{49}$ で $\sqrt{\quad}$ を使わずに表すと ± 7 になる。○か×か？

3年理科

生物の持つ形や性質のことをなんという？

3年英語

「My mom have been to Okinawa.」を正しく直してください

3年音楽

- (1) 琴で、1オクターヴの2本の弦を親指と中指で同時に弾くやり方をなんという？
- (2) 「花」の作曲者は？

3年美術

葛飾北斎の浮世絵に影響を受けたドビュッシーは、なんと言う曲を作曲しましたか？

3年保健

寝る前になぜスマホを見ちゃいけないの？

3年技術

使用者の働きかけに応じて応答する機能のことをなんという？

3年家庭

ネット通販、訪問販売、移動販売などの、固定の売り場を構えずに商品やサービスを消費者に直接販売する形態のことをなんという？

解答は次号で！